

Hello, Kids!

小学校英語
情報誌

2016
Vol.7-2

特集：他教科連携実践例



必然性のある
やり取りの中で
力を試すことが
できます。

知的好奇心を刺激する活動を

宗 誠(佐賀県有田町立有田中部小学校校長) 2

小学校教師はプロの料理人

池田 勝久(愛知大学非常勤講師/素和美小学校教頭) .. 4

他教科と連携した授業の実践

畠山 芽含(東京都足立区新田学園主幹教諭) 5

私の自慢の手づくり教材

佐藤 明子(埼玉県深谷市立深谷小学校教諭) 6

本岡 寛(広島県東広島市立東西条小学校教諭) 6

お悩み相談

SAY "HELLO" WITH ALISON! 7

根本 アリソン(宮城教育大学特任准教授) 8



東広島市立東西条小学校

開隆堂

特集：他教科連携実践例

知的好奇心を刺激する活動を

1. 高学年では簡単な英語で活動を難しく

「中学年まではあんなに楽しく歌ったりゲームをしたりしていたのに、高学年になるとノリが悪くなって…」このような声を時々聞きます。確かに4年生ぐらいまではカルタ取りやキーワードゲームなどに楽しそうに取り組んでいたのに、高学年になると「ゲームで勝てないからおもしろくない」「別に勝たなくてもいい」と単純なゲームにやる気を見せなくなる児童がいます。

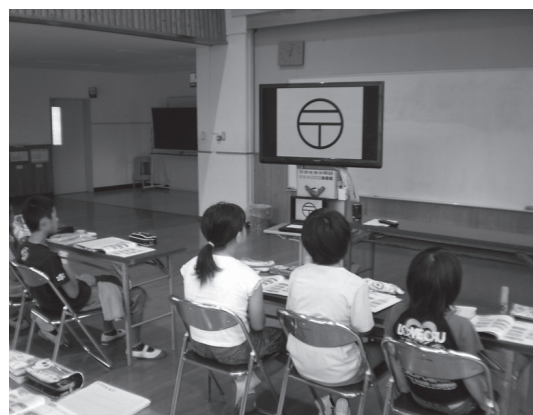
それならば…ということで今度は授業で使う(指導する)英語を難しくしてしまう場合がありますが、これは逆効果です。たとえ低学年や中学年から英語に触れる活動をしていても、週に1時間程度ではそこまで英語力が付いていることを期待すべきではありません。

つまり、高学年での外国語活動では「英語を難しくせずに(英語は簡単なもので)、活動を難しくする」ということがポイントになります。言い換えると「高学年の発達段階に即して、知的好奇心を刺激するような活動を仕組む」のです。そのための方法の一つが「他教科と関連した内容を取り入れる」ということになります。

ここでは社会科と関連した活動を2つ紹介します。

2. 地図記号を使って

「道案内」の活動の中で、いろいろな建物の英語表現を取り扱うことがあります。そのときには、地図記号クイズをしながら建物の英語表現に慣れ親しませることができます。同じ“What’s this?”という表現を使うにしても、消防署の写真を見せるのと、Yという地図記号を見せるのでは子どもたちの反応が違います。なぜなら消防署の写真は見たらわかるという点で、“What’s this?”という文脈に合っていないからです。たずねるからにはそれが何なのかすぐにはわからないという“information gap”(情報量の差)が必要になります。3年生で学習した地図記号を見せることで、“What’s this?”という質問に、頭を使って考えるというプロセスが加わります。



What’s this?



ちなみに、子どもたちが“fire station”という言葉を知らないので、つい日本語で「消防署！」と答えたとしてもほめてあげましょう。“What’s this?”に対して「消防署」という反応は正しいからです。その後に、“Yes! It’s a fire station.”という正しい英語で指導者側が切り返せばよいのです。

3. 地図帳を使いながら

Hi, friends! 2の中には、国旗や世界遺産などが出てくる単元があります。それ以外の単元でも、国の名前などはよく取り扱います。そのときに私は必ず地図帳を併用するようにしています。

「イギリス」「カナダ」などの国名を聞いて、大人は「世界地図で言えばあのあたりだな」とイメージすることができますが、小学生ではなかなか難しいようです。そこで、国名や国旗が出てきたときには、地図帳の世界地図のページを開かせ、“Where is Canada? Please point to Canada with your finger.”（カナダはどこにあるかな？ 指で差してごらん。）と指示をし、地図上で探させます。このような活動はTPR（Total Physical Response＝全身反応法）と呼ばれる指導法で、指示を聞いてそのとおりに動くというこ

ともコミュニケーションの一つの形態だということです。英語を発しななければならないという負担が少ない分、子どもたちは気楽に参加することができます。

それを競争のような形で行うのもよいのですが、隣同士のペアで教え合って指差すだけでも盛り上がります。活動には「競争」だけでなく、「協力」という要素を盛り込むことも必要です。



カナダはどこかな？

4. 小学校教員だからこそという活動を

他教科と関連した活動を組むのは、すべての教科を受け持っている小学校担任ならではの強みであると言えます。それを利用して、子どもたちの知的好奇心を刺激し、意味のあるやり取りを含む活動を考えていきましょう！

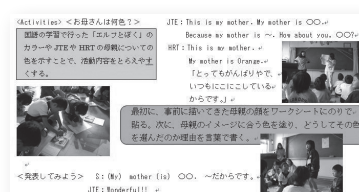
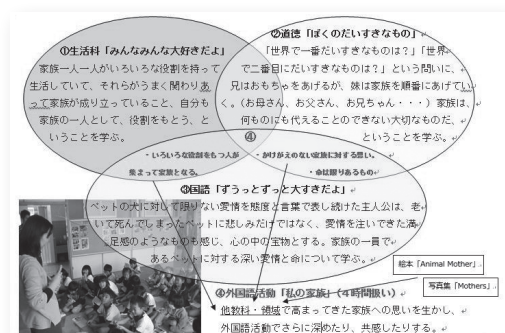
小学校教師はプロの料理人

愛知大学非常勤講師／素和美小学校教頭 池田 勝久



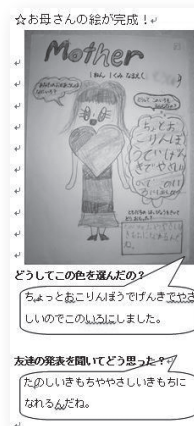
教師は料理人である。授業を料理にたとえると子どもがお客様で、学習内容は肉や野菜といった食材である。*Hi, friends!* のように食材がパックされ、手軽に調理できるようなものもあれば、旬の食材を直接産地に足を運んで手に入れるものもある。食材は調理次第でそのよさが生かされ、より美味しくなり、十分な栄養価を保つことができる。美味しい料理であれば、子どもたちはその味を楽しみながら平らげてしまい、もっと食べたいと強く思うにちがいない。それを可能にするコースメニューが教科横断的な調理法である。

各教科を利用した単品メニューもよいが、今回はさまざまな学びを総合的に活用するコースメニューをご紹介します。『私の家族』というテーマで、メニューは「生活科」「道徳」「国語」「外国語活動」。1年生の実践だが楽しいだけの活動はなく、子どもたちの心情に迫った外国語活動の事例である。



小泉清裕氏によれば、「各教科の学習内容を生かした指導法」における、適切な内容の選択を行うための条件として、①すべての児童にとって共通の話題であること、②多くの児童がその話題に興味を持っているか、持つ可能性が高いこと、③その話題を取り扱うことで、英語学習としての活動を成立させることができること、が挙げられている。

本実践はそのすべての条件に合致している。教科・領域と絡めることで、子どもたちが1つのことをより自然に多面的にとらえて興味を深めることができ、加えて、それらと外国語活動との内容が重なることで、学習の相乗効果を図ることが可能となる。小学校教師というプロの料理人がこんなコースメニューを提供すれば子どもたちは、料理をさらに味わいたいと感じるであろう。



<引用文献>小泉清裕(2009)「現場発! 小学校英語—子どもと親と先生に伝えたい」文溪堂

他教科と連携した授業の実践

東京都足立区新田学園主幹教諭 畠山 芽含



東京オリンピック・パラリンピックを4年後に控え、さまざまな視点で「東京」や「日本文化」があらためて注目され始めた昨今ですが、本校でも※国際コミュニケーション科の中で児童・生徒が伝統文化を学んでいます。折しもリオオリンピック・パラリンピックで世界が沸いた今夏、6年生ではその国際コミュニケーション科と連携させた英語活動の授業を行いました。この単元は、今後さまざまな場面でお迎えする外国からのお客様へ、目を見て話したりジェスチャーを使ったりしながら日本文化を伝えよう、というゴール設定です。「日本文化と言えるものにはどのようなものがあるのだろうか?」と児童同士が意見を出し合うことから始めて、あたり前のように関わってきた年中行事や遊び、また何気なく触れている身の回りの品物や周囲の建造物が、日本の文化の一つであることへの認識を深めていきました。併せて、単元の途中で日光自然教室への宿泊行事を体験したので、東照宮や二荒山神社等についても、実際に触れたり体験したりした日本の文化として伝えようとした児童も見られました。

また今年度当初、教育委員会より東京都独自教材 *Welcome to Tokyo* が全都下の中高生と小学5・6年生に配布されました。日本・東京の文化・歴史等の理解の促進、英語によるコミュニケーション能力の伸長および東京オリンピック・パラリンピックに向けた国際理解教育の推進を図ることを目的としています。その中の一冊 *Elementary* は *Life, Culture, Town* の3部構成となっており、給食やアニメ、お祭りの遊びや食べ物、昔遊び、東京の水、また落語等についてのトピックが含まれているので、本単元でも紹介の場面で活用しました。付属のDVDでは、キャラクターが初歩的な英語を使って外国からのお客様に紹介したり案内したりする場面が多く取り入れられています。英語活動の時間だけでなく、学級活動や道徳、社会科等の一部としても組み込んでいけるのではないかと考えます。

※「体験的、探究的、協同的な学習を通して、情報化社会に生きる国際人としての資質・能力を育てる」ことを目標に掲げた本校独自の科目。「英語活動・国際理解」と「生き方」「情報」「オリンピック・パラリンピック推進教育」の4領域から成る。

私の自慢の手づくり教材

身近にあるもので生きた英語を

埼玉県深谷市立深谷小学校教諭 佐藤 明子



外国語活動が日常の授業の一つとなりました。各教科の進度は気になる、各学校行事は目白押しといった毎日の中で、外国語活動の準備にける時間と手間を、効率のよいものにしたいと思います。(夜なべはしない!)

●Who is this? ならば…

→先生方の体の一部などを写真で示す。裏には先生の顔写真。子どもたちは本気で誰? と考えます。(左ではイラストで示しました。)

→伝記の本や歴史上の人物のカードを利用して。

●How many? ならば…

→鉛筆を何本持っている? 筆箱の中身を数えるだけなのに、こんなに本気になるなんて!

図書室の日本語の本、カレンダー、新聞、チラシ…。身近にあるものをうまく使って、英語で本当の話をしたいものです。

英語能力見取りのための教材開発

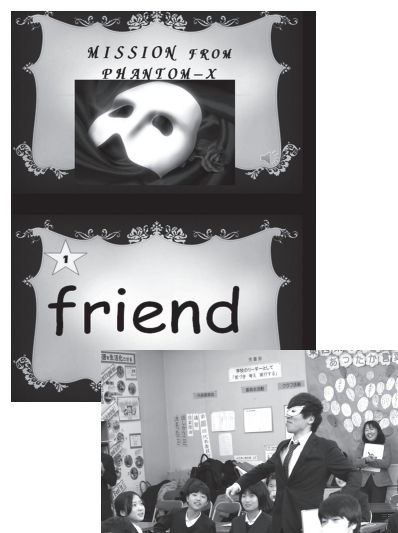
広島県東広島市立東西条小学校教諭 本岡 寛

小学校で教科としての英語が始まるにあたり、児童の英語能力の見取りが、大きな課題となる。本稿では、パフォーマンス評価のために開発した「ファントムXからの手紙」という教材を紹介する。

児童のもとに「校内に隠された英語の文字カードを集め、並べかえてキーワードを解読せよ。」というミッションが届けられる。文字カード収集のためには、英語しか話せない大学生に校内を案内し、

隠された場所を指示しなければならない。児童はこれまで外国語活動で身につけた英語表現を駆使して、何とかそのミッションをクリアしようとする。ミッション解決に協力する大学生が、その様子を評価するという構成である。

道案内や依頼表現の定着状況を見取るとともに、文字への慣れ親しみを促すのに有効な教材であるとする。



お悩み相談

Q

「授業を英語で進めていくことが不安です。
すべて英語で進めなくてはいけないのでしょうか。」

A

教師ができるだけ英語を使う姿勢を見せることは大切ですが、ゲームの説明や込み入った指示など、英語で言うとうわかりにくくなる場合は、無理をする必要はありません。

ただし、徐々に英語を増やす努力は必要です。4つのポイントがあります。第1に、あいさつ、ほめことば、指示など、基本的なクラスルームイングリッシュをできるだけ使うことです。第2に、「好きなペットは何？」など、子どもたちと簡単な英語を使って、おおらかにやりとりを楽しむ場面を、授業に取り入れることです。教師ばかりが英語を話すのではなく、子どもの発言を拾ったり、英語の発話を引き出したり、インタラクションを大切にしていきたいと思います。第3に、英語で児童に語りかけるときは、できるだけ絵や動作などを使ったり、具体例を出したりするなど、「意味」をわかりやすくする工夫をすることです。第4に、英語で子どもに語りかけるときは、日本語訳をつけないようにすべきです。ときどきALTの英語を「親切に」全部日本語に訳す先生がいます。絵や動作などを示し、できるだけ英語だけで理解する習慣を育てたいものです。

北海道教育大学教授 萬谷 隆一



A

子どもの立場になってみましょう。目の前にいる先生がずうっとわからない英語を話していたら、どんな気持ちでしょうか。でも、英語だけでなく、ジェスチャーや表情からなんとなく先生が言っていることがわかるとしたらどうでしょう。あるいは、先生も子どもも一緒に楽しく会話をする授業だったら？ こう考えると先生側の英語の使い方はどうあるべきか自ずと見えてきませんか？ 大事なのは、子どもが相手と真摯に向き合い、英語を使ったコミュニケーションをすることです。先生が流暢に英語だけで授業を進めても、子どもがおいてけぼりなら本末転倒です。子どもにとって適切な英語と日本語を上手に使い分けましょう。とはいえ、先生の英語力が豊かになれば、授業で使う表現を選んだり、教室英語を使ったりするのも楽になるでしょう。少しずつでも教室英語のレパートリーや、読み聞かせできる英語の絵本、歌える歌やチャンツを増やしていくことをお勧めします。

宮崎大学准教授 アダチ 徹子





SAY "HELLO" WITH ALISON!

■ Hints on Using Classroom English

今回は、伝わるクラスルームイングリッシュの基本のヒントを紹介します。

実は、英語の指示をするときの大切なポイントは、それが本当に伝わる自信を持つことです。例えば、“Make pairs, please!”と言っても誰もペアにならない場合には、すぐ日本語で言い直す前に、もう一度ジェスチャーをしながらゆっくりと“Make pairs, please!”と言ってください。そして一組でもペアになった児童たちがいたら、そのペアに“Jun and Ken, very good!”と声をかけるとほかの児童はすぐに真似るでしょう。

長い指示は2つに分けましょう。クイズ感覚で行うと楽しいです。

例えば、“Take one sheet and pass them on.”の場合、“Take one sheet”を理解するまで何度もリピートして、それから“pass them on”をジェスチャーしながら言ってみましょう。このように、短く分けると話し手も聞き手もスムーズに進みます。すぐに日本語に訳してしまうと児童は英語の指示を理解しようとしなくなってしまうため、どうしても伝わらないときには「何て言ったと思う？」とたずね、児童に意味をじっくり考えさせます。

(宮城教育大学特任准教授 根本 アリソン)

研究会紹介

札幌小学校 英語活動研究会

本会は、平成27年度に小学校の先生方を中心として中学校の先生方も加わり発足しました。現在、50名を超える会員が授業研究、先を見通した活動の在り方の研修・研究を行っています。文部科学省の直山木綿子先生にご講演いただきながら、研究大会を毎年開催し、併せて年間複数回の研修も実施しています。

平成29年12月8日(金)・9日(土)には、第14回全国小学校英語活動実践研究大会(第3回札幌小学校英語活動研究大会)を開催いたします。文部科学省の直山先生、琉球大学 大城先生、北海道教育大学 萬谷先生・堀田先生、山梨大学の中村先生を講師としてお迎えし、札幌市内5校での授業公開と直山先生のご講演、研究発表を行います。

これからも、子どもの育ちを軸として、子どもたちの未来につながる英語(外国語)活動を目指し、活動を高めてまいります。

札幌小学校英語活動研究会会長 網淵 友也
(札幌市立澄川南小学校校長)

文責:札幌市立大倉山小学校校長 類家 斉

小学校英語情報誌

Hello, Kids!

Vol.7-2 (通巻22号)

非売品



開隆堂出版株式会社

〒113-8608 東京都文京区向丘 1-13-1 ☎ 03(5684)6111

平成28年11月15日印刷 平成28年11月21日発行 編集兼発行人 大熊 隆晴

印刷所 株式会社平河工業社 〒162-0814 東京都新宿区新小川町3-9

発行所 開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1

☎ 03(5684)6121(営業), (5684)6118(販売), (5684)6115(編集) <http://www.kairyudo.co.jp/>

北海道支社	〒060-0061	札幌市中央区南一条西6-11	札幌北辰ビル8階	☎ 011(231)0403
東北支社	〒983-0852	仙台市宮城野区榴岡4-3-10	仙台TBビル4階	☎ 022(742)1213
名古屋支社	〒464-0802	名古屋市千種区星が丘元町14-4	星ヶ丘プラザビル6階	☎ 052(789)1741
大阪支社	〒550-0013	大阪市西区新町2-10-16		☎ 06(6531)5782
九州支社	〒810-0075	福岡市中央区港2-1-5	FYCビル3階	☎ 092(733)0174